

【資料編】

目 次

1	ごみ排出量の推計方法	1
2	人口.....	4
3	ごみ排出原単位の推計	5
3.1	家庭系ごみ.....	5
3.2	事業系ごみ.....	10
3.3	集団回収	14
3.4	自家処理	15
4	ごみ排出量	16
5	施策による効果の試算	19
5.1	減量化効果.....	19
5.2	資源化効果（市民の分別排出の徹底）	20
6	数値目標達成時のごみ排出量等	22
7	処理形態別人口等の推計	26
7.1	公共下水道人口の比率	27
7.2	合併処理浄化槽人口	28
7.3	計画収集人口.....	29

ごみ及びし尿等排出量の将来予測

1 ごみ排出量の推計方法

推計は、直近3年間（平成23年度～25年度）の実績値をもとに、以下に示す一次傾向線、二次傾向線、指数曲線、べき曲線、及びロジスティック曲線、平均値の6推計式により行いました。

- ①一次傾向線： $y = a x + b$
 - ②二次傾向線： $y = a x^2 + b x + c$
 - ③一次指数曲線： $y = a \times b^x$
 - ④べき曲線： $y = y_0 + a \times x^b$
 - ⑤ロジスティック曲線： $y = K / (1 + e^{(a - b x)})$
 - ⑥平均値： $y = \text{一定値}$
- x：年度（基準年からの経過年数）
y：x年度（基準年からx年後）の推計値
y₀：実績初年度の値
K：過去の実績値から求められる飽和値

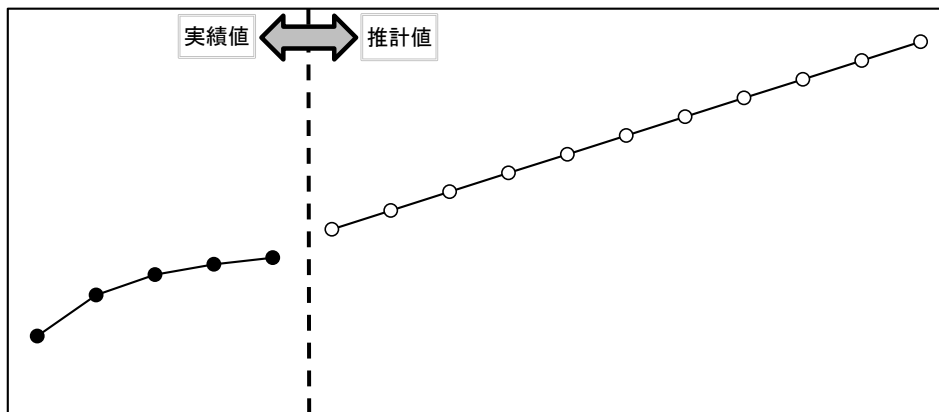
なお、推計時には、以下を考慮しました。

- ◆過去のごみ排出実績と比べて極端に異なる傾向や、現実的な増減傾向を示さない推計式は候補から除外しました。
- ◆ごみの大きな増減を引き起こす要因が考えられないにも関わらず、増加や減少が継続する場合は、相関係数が高くとも候補から除外しました（増加・減少傾向の緩やかなものを選択した場合があります）。
- ◆過去の実績が増減を繰り返し、その増減の理由や明確な傾向が不明確な場合は、実績値の平均値を推計値としました。

また、推計式の概要は、以下に示すとおりです。

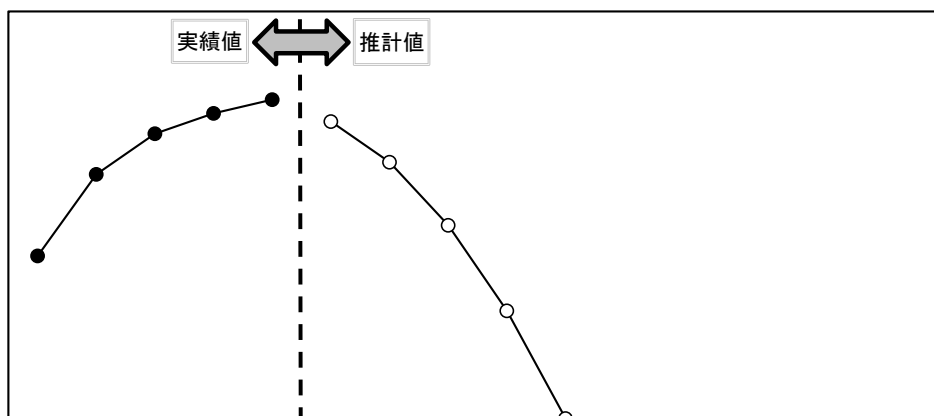
①一次傾向線： $y = a x + b$

実績値を直線に置き換えた場合の推計式です。



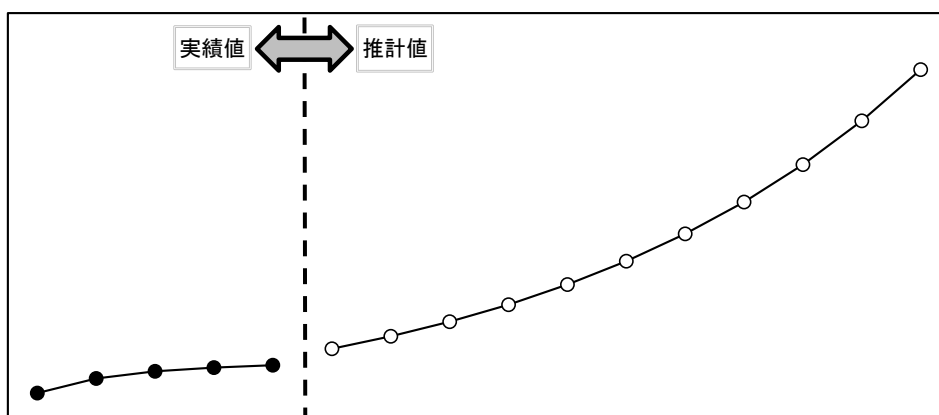
②二次傾向線： $y = a x^2 + b x + c$

実績値を放物線に置き換えた場合の推計式です。



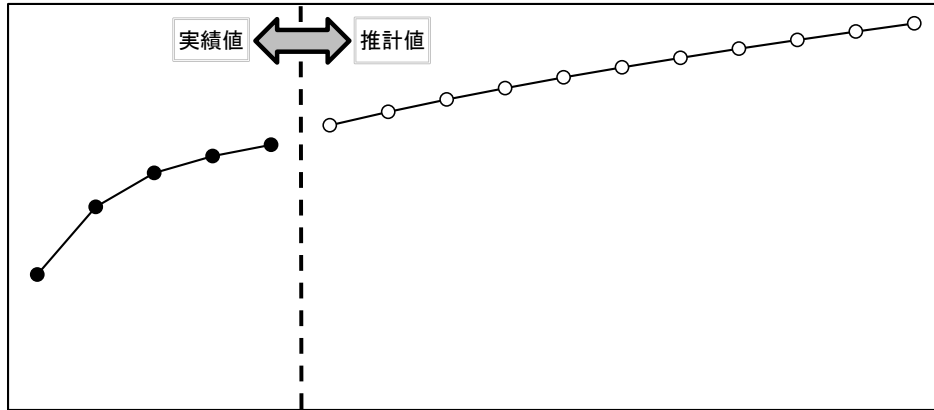
③一次指数曲線： $y = a \times b^x$

実績値の伸びを一定の比率で増加または減少させる推計式であり、増加または減少傾向が急激になります。



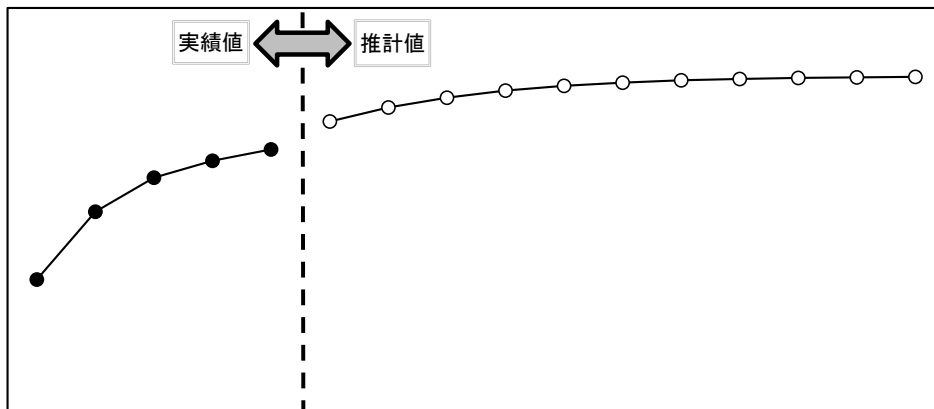
④べき曲線： $y = y_0 + a \times x^b$

実績値の伸びを徐々に増加させる推計式であり、実績値が増加し続ける場合に相関係数が高くなります。



⑤ロジスティック曲線： $y = K / (1 + e^{(a - b \times x)})$

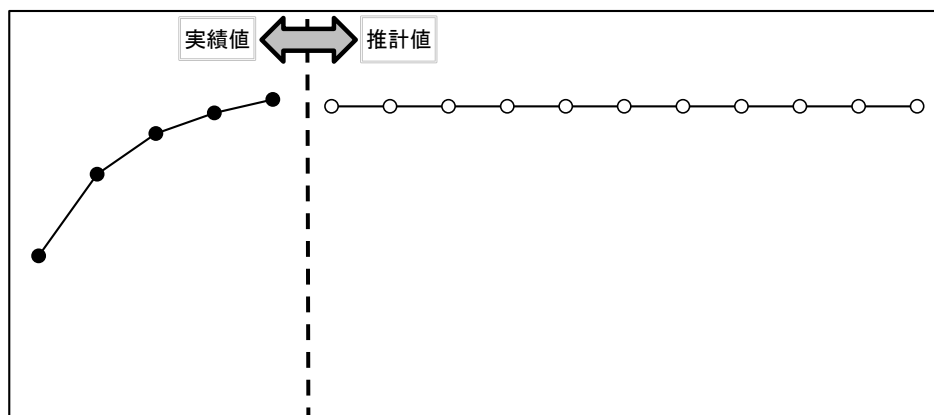
実績値の伸びを徐々に増加させた後、徐々に減少させ一定の値に近づく推計式です。



⑥平均値： $y = \text{一定値}$

実績値の平均値に近づく推計式です。

(例) 過去2年間平均



2 人口

人口は、表 1 に示すとおりです。人口は、「瀬戸内市の人口推計 平成 27 年～平成 47 年（平成 24 年 7 月）」に基づき設定しました。

表 1 人口

	年度	人口 [人]
実績値	H23	39,212
	H24	39,072
	H25	38,766
	H26	38,446
	H27	38,276
推計値	H28	37,610
	H29	36,944
	H30	36,278
	R1	35,612
	R2	34,947
	R3	34,652
	R4	34,357
	R5	34,062
	R6	33,767
	R7	33,472
	R8	33,180
	R9	32,888
R10	32,596	
R11	32,304	
R12	32,014	

注) 令和 2 年度、7 年度、12 年度（オレンジ着色）の推計値は「瀬戸内市の人口推計 平成 27 年～平成 47 年（平成 24 年 7 月）」における推計値、その他の年度の推計値は、オレンジ着色の人口を均等に減少させた人口

3 ごみ排出原単位の推計

3.1 家庭系ごみ

3.1.1 可燃ごみ

家庭系可燃ごみは全体的には減少傾向にあります。直近 2 年間はほぼ横ばいで推移しているため、直近 2 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 951.13 - 16.07X$						0.965	
	二次傾向線	$Y = 2646.312 - 152.12X + 2.721X^2$						0.985	
	指数曲線	$Y = 1136.25 \times 0.971315^X$						0.966	
	べき曲線	$Y = 586.3 - 23.916 (X - 23)^{0.73593}$						0.979	
	ロジスティック曲線	$Y = 587 / (1 + e^{(-28.8309 + 1.0189X)})$						0.783	
	平均値	直近2年平均値						-	○

		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値	H23		586.3	-	-	-	-	-	-
	H24		562.2	-	-	-	-	-	-
	H25		549.5	-	-	-	-	-	-
	H26		523.7	-	-	-	-	-	-
	H27		525.2	-	-	-	-	-	-
推計結果	H28		-	501.2	520.2	503.0	508.1	337.4	524.5
	H29		-	485.1	523.2	488.6	496.9	192.5	524.5
	H30		-	469.0	531.6	474.5	486.2	87.9	524.5
	R1		-	453.0	545.5	460.9	475.8	35.1	524.5
	R2		-	436.9	564.8	447.7	465.8	13.2	524.5
	R3		-	420.8	589.5	434.9	456.1	4.8	524.5
	R4		-	404.8	619.7	422.4	446.6	1.8	524.5
	R5		-	388.7	655.3	410.3	437.4	0.6	524.5
	R6		-	372.6	696.4	398.5	428.4	0.2	524.5
	R7		-	356.5	742.9	387.1	419.5	0.1	524.5
R8		-	340.5	794.9	376.0	410.8	0.0	524.5	

推計結果等「g/人・日」

3.1.2 不燃ごみ

家庭系不燃ごみは全体的には増加傾向にありますが、直近 2 年間はほぼ横ばいで推移しているため、直近 2 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = -129.24 + 5.68X$						0.874	
	二次傾向線	$Y = 840.771 - 72.17X + 1.557X^2$						0.919	
	指数曲線	$Y = 0 \times 1.575686^X$						0.864	
	べき曲線	-						-	
	ロジスティック曲線	$Y = 25 / (1 + e^{(39.604 - 1.6115X)})$						0.840	
	平均値	直近2年平均値						-	○
	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値	
実績値	H23	5.5	-	-	-	-	-	-	
	H24	5.0	-	-	-	-	-	-	
	H25	5.3	-	-	-	-	-	-	
	H26	23.2	-	-	-	-	-	-	
	H27	24.8	-	-	-	-	-	-	
推計結果	H28	-	29.8	40.7	0.0	-	24.9	24.0	
	H29	-	35.5	57.3	0.0	-	25.0	24.0	
	H30	-	41.2	77.0	0.0	-	25.0	24.0	
	R1	-	46.8	99.8	0.0	-	25.0	24.0	
	R2	-	52.5	125.7	0.0	-	25.0	24.0	
	R3	-	58.2	154.7	0.0	-	25.0	24.0	
	R4	-	63.9	186.9	0.0	-	25.0	24.0	
	R5	-	69.6	222.2	0.0	-	25.0	24.0	
	R6	-	75.2	260.5	0.0	-	25.0	24.0	
	R7	-	80.9	302.0	0.0	-	25.0	24.0	
R8	-	86.6	346.6	0.0	-	25.0	24.0		

推計結果等 [g/人・日]

The graph displays the following data points for the '実績' (Actual) series:

年度	実績 [g/人・日]
23	5.5
24	5.0
25	5.3
26	23.2
27	24.8
28	-
29	-
30	-
1	-
2	-
3	-
4	-
5	-
6	-
7	-
8	-

3.1.3 資源ごみ

家庭系資源ごみは全体的には増加傾向にあります。直近 2 年間はほぼ横ばいで推移しているため、直近 2 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X : 平成年度、Y : 推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = -120.3 + 6.94X$						0.893	
	二次傾向線	$Y = -1606.779 + 126.24X - 2.386X^2$						0.964	
	指数曲線	$Y = 1.4 \times 1.155305^X$						0.872	
	べき曲線	$Y = 33.5 + 17.987 (X - 23)^{0.36405}$						0.969	
	ロジスティック曲線	$Y = 70 / (1 + e^{(12.9329 - 0.5714X)})$						0.941	
	平均値	直近2年平均値						-	○
	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値	
実績値	H23	33.5	-	-	-	-	-	-	
	H24	52.3	-	-	-	-	-	-	
	H25	53.3	-	-	-	-	-	-	
	H26	65.1	-	-	-	-	-	-	
	H27	61.8	-	-	-	-	-	-	
推計結果	H28	-	74.0	57.3	79.7	65.8	66.9	63.5	
	H29	-	81.0	47.6	92.1	68.0	68.2	63.5	
	H30	-	87.9	33.0	106.4	70.0	69.0	63.5	
	R1	-	94.8	13.7	123.0	71.9	69.4	63.5	
	R2	-	101.8	-10.4	142.0	73.5	69.7	63.5	
	R3	-	108.7	-39.2	164.1	75.1	69.8	63.5	
	R4	-	115.7	-72.8	189.6	76.6	69.9	63.5	
	R5	-	122.6	-111.2	219.0	78.0	69.9	63.5	
	R6	-	129.5	-154.4	253.1	79.3	70.0	63.5	
	R7	-	136.5	-202.3	292.4	80.5	70.0	63.5	
R8	-	143.4	-255.0	337.8	81.7	70.0	63.5		

推計結果等「g/人・日」

3.1.4 粗大ごみ

家庭系粗大ごみは全体的には横ばいで推移しているため、直近 5 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X : 平成年度、Y : 推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 9.37 + 0.41X$						0.284	
	二次傾向線	$Y = 494.688 - 38.54X + 0.779X^2$						0.699	
	指数曲線	$Y = 12.78 \times 1.017094^X$						0.234	
	べき曲線	-						-	
	ロジスティック曲線	$Y = 30 / (1 + e^{(1.2009 - 0.0742X)})$						0.275	
	平均値	直近5年平均値						-	○
	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値	
実績値	H23	19.5	-	-	-	-	-	-	
	H24	19.9	-	-	-	-	-	-	
	H25	18.8	-	-	-	-	-	-	
	H26	16.8	-	-	-	-	-	-	
	H27	23.1	-	-	-	-	-	-	
推計結果	H28	-	20.9	26.3	20.5	-	21.2	19.6	
	H29	-	21.3	32.2	20.9	-	21.6	19.6	
	H30	-	21.7	39.6	21.3	-	22.1	19.6	
	R1	-	22.1	48.6	21.6	-	22.5	19.6	
	R2	-	22.5	59.1	22.0	-	22.9	19.6	
	R3	-	22.9	71.2	22.4	-	23.3	19.6	
	R4	-	23.3	84.9	22.7	-	23.7	19.6	
	R5	-	23.7	100.1	23.1	-	24.1	19.6	
	R6	-	24.1	116.8	23.5	-	24.4	19.6	
	R7	-	24.5	135.2	23.9	-	24.7	19.6	
R8	-	25.0	155.0	24.3	-	25.0	19.6		

推計結果等 [g/人・日]

3.1.5 その他ごみ

家庭系その他ごみは全体的には横ばいで推移しているため、直近 5 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X : 平成年度、Y : 推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = -2.93 + 0.35X$						0.867	
	二次傾向線	$Y = 90.52 - 7.15X + 0.15X^2$						0.973	
	指数曲線	$Y = 1.36 \times 1.059757^X$						0.878	
	べき曲線	-						-	
	ロジスティック曲線	$Y = 10 / (1 + e^{(3.3684 - 0.1482X)})$						0.861	
	平均値	直近5年平均値						-	○

	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値	H23	5.4	-	-	-	-	-	-
	H24	5.3	-	-	-	-	-	-
	H25	5.7	-	-	-	-	-	-
	H26	5.8	-	-	-	-	-	-
	H27	6.9	-	-	-	-	-	-
推計結果	H28	-	6.9	7.9	6.9	-	6.9	5.8
	H29	-	7.2	9.3	7.3	-	7.2	5.8
	H30	-	7.6	11.0	7.8	-	7.5	5.8
	R1	-	7.9	13.0	8.2	-	7.7	5.8
	R2	-	8.3	15.3	8.7	-	8.0	5.8
	R3	-	8.6	17.9	9.2	-	8.2	5.8
	R4	-	9.0	20.8	9.8	-	8.4	5.8
	R5	-	9.3	24.0	10.4	-	8.6	5.8
	R6	-	9.7	27.5	11.0	-	8.8	5.8
	R7	-	10.0	31.3	11.7	-	8.9	5.8
R8	-	10.4	35.4	12.3	-	9.1	5.8	

推計結果等 [g/人・日]

[g/人・日]

40
30
20
10
0

23 24 25 26 27 28 29 30 1 2 3 4 5 6 7 8 [年度]

● 実績 ▲ 一次傾向線 ■ 二次傾向線 ○ 指数曲線 □ ロジスティック曲線 ◇ 5年平均

3.2 事業系ごみ

3.2.1 可燃ごみ

事業系可燃ごみは減少傾向で推移しているため、減少傾向を示す3推計式のうち、最も相関係数が高いべき曲線を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)					相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 7.83 - 0.13X$					0.794	
	二次傾向線	$Y = 30.259 - 1.93X + 0.036X^2$					0.835	
	指数曲線	$Y = 9.2 \times 0.972421^X$					0.797	
	べき曲線	$Y = 5 - 0.467(X - 23)^{0.12107}$					0.922	○
	ロジスティック曲線	-					-	
	平均値	-					-	

		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値	H23		5.0	-	-	-	-	-	-
	H24		4.5	-	-	-	-	-	-
	H25		4.5	-	-	-	-	-	-
	H26		4.6	-	-	-	-	-	-
	H27		4.3	-	-	-	-	-	-
推計結果	H28		-	4.19	4.44	4.20	4.43	-	4.58
	H29		-	4.06	4.57	4.09	4.42	-	4.58
	H30		-	3.93	4.76	3.98	4.41	-	4.58
	R1		-	3.80	5.03	3.87	4.40	-	4.58
	R2		-	3.67	5.36	3.76	4.39	-	4.58
	R3		-	3.54	5.77	3.66	4.38	-	4.58
	R4		-	3.41	6.26	3.55	4.38	-	4.58
	R5		-	3.28	6.81	3.46	4.37	-	4.58
	R6		-	3.15	7.44	3.36	4.36	-	4.58
	R7		-	3.02	8.13	3.27	4.36	-	4.58
	R8		-	2.89	8.90	3.18	4.35	-	4.58

推計結果等 [t/日]

3.2.2 不燃ごみ

事業系不燃ごみは全体的には横ばいで推移しているため、直近 5 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X : 平成年度、Y : 推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 0.46 - 0.01X$						0.549	
	二次傾向線	$Y = -0.791 + 0.087X - 0.002X^2$						0.560	
	指数曲線	$Y = 2.13 \times 0.892706^X$						0.522	
	べき曲線	-						-	
	ロジスティック曲線	$Y = 1 / (1 + e^{(-1.2647 + 0.1283X)})$						0.542	
	平均値	直近5年平均値						-	

		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値	H23		0.14	-	-	-	-	-	-
	H24		0.16	-	-	-	-	-	-
	H25		0.16	-	-	-	-	-	-
	H26		0.07	-	-	-	-	-	-
	H27		0.12	-	-	-	-	-	-
推計結果	H28		-	0.18	0.08	0.09	-	0.09	0.13
	H29		-	0.17	0.05	0.08	-	0.08	0.13
	H30		-	0.16	0.02	0.07	-	0.07	0.13
	R1		-	0.15	-0.02	0.06	-	0.06	0.13
	R2		-	0.14	-0.06	0.06	-	0.06	0.13
	R3		-	0.13	-0.10	0.05	-	0.05	0.13
	R4		-	0.12	-0.15	0.04	-	0.04	0.13
	R5		-	0.11	-0.20	0.04	-	0.04	0.13
	R6		-	0.10	-0.25	0.04	-	0.03	0.13
	R7		-	0.09	-0.31	0.03	-	0.03	0.13
R8		-	0.08	-0.37	0.03	-	0.03	0.13	

推計結果等 [t/日]

The graph displays the waste volume in t/day over time. The actual data (実績) shows a fluctuating trend from H23 to H27. From H28 onwards, the data is projected using various models: a linear trend line (一次傾向線), a quadratic trend line (二次傾向線), an exponential curve (指数曲線), a logistic curve (ロジスティック曲線), and a 5-year average (5年平均). The 5-year average is a constant horizontal line at approximately 0.13 t/day. The other models show a general downward trend over the projection period.

3.2.3 資源ごみ

事業系資源ごみは全体的には横ばいで推移しているため、直近 5 年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = -0.18 + 0.01X$						0.686	
	二次傾向線	$Y = -1.425 + 0.109X - 0.002X^2$						0.713	
	指数曲線	$Y = 0 \times 1.221706^X$						0.772	
	べき曲線	-						-	
	ロジスティック曲線	$Y = 1 / (1 + e^{(8.3461 - 0.2097X)})$						0.656	
	平均値	直近5年平均値						-	

		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値	H23		0.03	-	-	-	-	-	-
	H24		0.03	-	-	-	-	-	-
	H25		0.04	-	-	-	-	-	-
	H26		0.08	-	-	-	-	-	-
	H27		0.05	-	-	-	-	-	-
推計結果	H28		-	0.10	0.06	0.00	-	0.08	0.05
	H29		-	0.11	0.05	0.00	-	0.09	0.05
	H30		-	0.12	0.04	0.00	-	0.11	0.05
	R1		-	0.13	0.03	0.00	-	0.14	0.05
	R2		-	0.14	0.01	0.00	-	0.16	0.05
	R3		-	0.15	-0.01	0.00	-	0.19	0.05
	R4		-	0.16	-0.03	0.00	-	0.23	0.05
	R5		-	0.17	-0.06	0.00	-	0.27	0.05
	R6		-	0.18	-0.09	0.00	-	0.31	0.05
	R7		-	0.19	-0.13	0.00	-	0.36	0.05
R8		-	0.20	-0.17	0.00	-	0.41	0.05	

推計結果等 [t/日]

The graph displays the trend of resource waste in t/day from Heisei 23 to Reiwa 8. The actual performance (実績) shows an overall upward trend from approximately 0.03 t/day in H23 to 0.20 t/day in R8. The primary trend line (一次傾向線) shows a steady increase. The secondary trend line (二次傾向線) shows a slight downward trend after H30. The exponential curve (指数曲線) remains at 0.00. The logistic curve (ロジスティック曲線) shows a sharp increase starting from H28. The 5-year average (5年平均) is constant at 0.05 t/day.

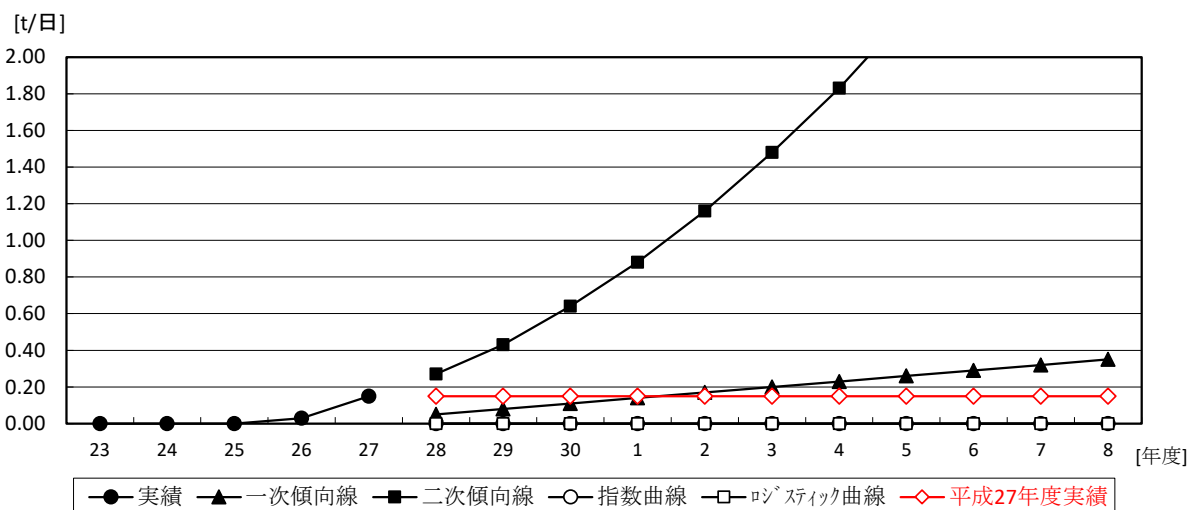
3.2.4 粗大ごみ

事業系粗大ごみは、平成 27 年度に増加したため、平成 27 年度の実績値を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)	相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = -0.79 + 0.03X$	0.802	
	二次傾向線	$Y = 11.047 - 0.917X + 0.019X^2$	0.975	
	指数曲線	-	-	
	べき曲線	-	-	
	ロジスティック曲線	-	-	
	平均値	直近1年値	-	○

		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値	H23	0.00	-	-	-	-	-	-	-
	H24	0.00	-	-	-	-	-	-	-
	H25	0.00	-	-	-	-	-	-	-
	H26	0.03	-	-	-	-	-	-	-
	H27	0.15	-	-	-	-	-	-	-
推計結果	H28	-	0.05	0.27	-	-	-	-	0.15
	H29	-	0.08	0.43	-	-	-	-	0.15
	H30	-	0.11	0.64	-	-	-	-	0.15
	R1	-	0.14	0.88	-	-	-	-	0.15
	R2	-	0.17	1.16	-	-	-	-	0.15
	R3	-	0.20	1.48	-	-	-	-	0.15
	R4	-	0.23	1.83	-	-	-	-	0.15
	R5	-	0.26	2.23	-	-	-	-	0.15
	R6	-	0.29	2.66	-	-	-	-	0.15
	R7	-	0.32	3.13	-	-	-	-	0.15
R8	-	0.35	3.64	-	-	-	-	0.15	

推計結果等 [t/日]



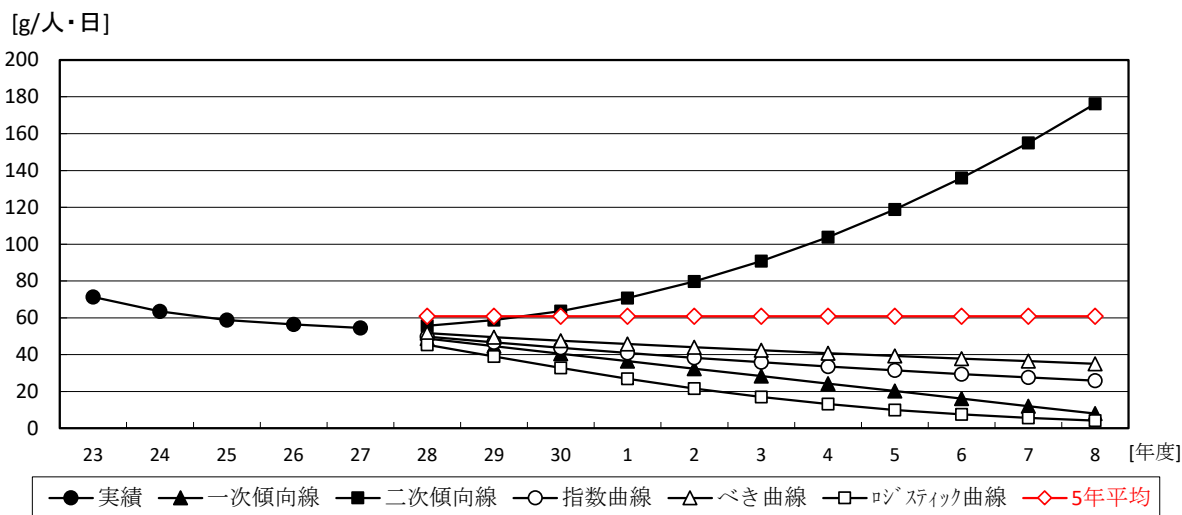
3.3 集団回収

集団回収量は全体的には横ばいで推移しているため、直近5年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)	相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 162.65 - 4.07X$	0.958	○
	二次傾向線	$Y = 790.011 - 54.42X + 1.007X^2$	0.998	
	指数曲線	$Y = 312.45 \times 0.936509^X$	0.968	
	べき曲線	$Y = 71.3 - 8.034 (X - 23)^{0.55623}$	0.998	
	ロジスティック曲線	$Y = 80 / (1 + e^{(-9.1318 + 0.3165X)})$	0.926	
	平均値	直近5年平均値	-	

		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
実績値		H23	71.3	-	-	-	-	-	-
		H24	63.5	-	-	-	-	-	-
		H25	58.8	-	-	-	-	-	-
		H26	56.4	-	-	-	-	-	-
		H27	54.5	-	-	-	-	-	-
推計結果		H28	-	48.7	55.7	49.8	51.6	45.4	60.9
		H29	-	44.6	58.7	46.6	49.5	39.1	60.9
		H30	-	40.6	63.7	43.7	47.6	32.8	60.9
		R1	-	36.5	70.7	40.9	45.8	26.9	60.9
		R2	-	32.4	79.7	38.3	44.0	21.6	60.9
		R3	-	28.3	90.8	35.9	42.4	17.0	60.9
		R4	-	24.3	103.8	33.6	40.8	13.1	60.9
		R5	-	20.2	118.9	31.5	39.3	10.0	60.9
		R6	-	16.1	136.0	29.5	37.8	7.5	60.9
		R7	-	12.1	155.1	27.6	36.4	5.6	60.9
	R8	-	8.0	176.2	25.8	35.1	4.2	60.9	

推計結果等 [g/人・日]



3.4 自家処理

自家処理量は全体的には横ばいで推移しているため、直近5年間の平均値を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)					相関係数	採用	
推計式等	一次傾向線	$Y = 0.4 + 0X$					1.000		
	二次傾向線	$Y = 0.4 + 0X + 0X^2$					-		
	指数曲線	$Y = 0.4 \times 1^X$					1.000		
	べき曲線	-					-		
	ロジスティック曲線	$Y = 10 / (1 + e^{(3.1781 + 0X)})$					-		
	平均値	直近5年平均値					-	○	
		年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値
推計結果等 〔g/人・日〕	実績値	H23	0.4	-	-	-	-	-	-
		H24	0.4	-	-	-	-	-	-
		H25	0.4	-	-	-	-	-	-
		H26	0.4	-	-	-	-	-	-
		H27	0.4	-	-	-	-	-	-
	推計結果	H28	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		H29	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		H30	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		R1	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		R2	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		R3	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		R4	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		R5	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
		R6	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
R7	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4		
R8	-	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4		

[g/人・日]

[年度]

● 実績 ▲ 一次傾向線 ■ 二次傾向線 ○ 指数曲線 □ ロジスティック曲線 ◇ 5年平均

4 ごみ排出量

現状施策を継続した場合のごみ排出量の推計結果は、表 2 に示すとおりです。

表 2 (2) ごみ排出量の推計結果 (現状予測)

	単位	推計式等	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
			実績 ← → 推計															
N 集団回収量	t/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】原単位 × a1 × 365 × 10 ⁻⁶	1,020	906	832	792	762	748	735	722	708	695	689	683	677	672	666	660
	t/日	年間排出量 ÷ 365	2.8	2.5	2.3	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8
	g/人・日	直近5年平均	71.3	63.5	58.8	56.4	54.6	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5
O 自家処理量	t/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】原単位 × a1 × 365 × 10 ⁻⁶	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	t/日	年間排出量 ÷ 365	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	g/人・日	直近5年平均	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
P 総排出量	t/年	M + N + O	12,229	11,829	11,489	11,435	11,421	11,240	11,068	10,897	10,724	10,552	10,474	10,400	10,321	10,243	10,169	10,092
	t/日	(M + N + O) ÷ 365	33.5	32.4	31.5	31.3	31.3	30.8	30.3	29.9	29.4	28.9	28.7	28.5	28.3	28.1	27.9	27.6
	g/人・日	(M + N + O) × 10 ⁶ ÷ A ÷ 365	854.4	829.4	812	814.9	817.5	818.8	820.8	822.9	825	827.2	828.1	829.3	830.2	831.1	832.3	833.3
Q 処理後再生利用量 (H23のみ直接資源化量を含む、H23、H24、H27は溶融スラグを含む)	t/年	(C + D + F + I + J) × 99.9% (H26-27の有価物回収率の平均値)	874	1,199	983	1,376	1,420	1,345	1,322	1,300	1,276	1,254	1,243	1,234	1,223	1,213	1,204	1,194
R 総資源化量	t/年	N + Q	1,894	2,105	1,815	2,168	2,182	2,093	2,057	2,022	1,984	1,949	1,932	1,917	1,900	1,885	1,870	1,854
S リサイクル率	%	R ÷ P × 100	15.5	17.8	15.8	19.0	19.1	18.6	18.6	18.6	18.5	18.5	18.4	18.4	18.4	18.4	18.4	18.4
T 1人1日あたりの可燃ごみ排出量	g/人・日	(B + H) ÷ a1 ÷ 365 × 10 ⁶	714.6	678.1	664.6	642.4	637.9	642.3	644.2	646.1	648.1	650.1	651.0	652.0	652.8	653.6	654.8	655.7
U 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量 (集団回収量、資源ごみ等を除く)	g/人・日	G - D	616.9	592.5	579.4	569.6	580.1	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9	573.9
V 最終処分量	t/年	P × 8.5% (H25-27の最終処分率の平均値)	807	673	992	972	971	955	941	926	912	897	890	884	877	871	864	858

5 施策による効果の試算

5.1 減量化効果

5.1.1 啓発等による家庭系ごみの減量化

【検討条件】 1)ごみの減量化に関する啓発活動等により、ごみの減量化に対する市民の意識向上を図り、ごみの減量化効果を見込みます。

2)減量化効果は、最大 5.5%を見込みます。

【算出式】 次のとおりです。

$$\text{減量化量[t/年]} = \text{家庭系ごみ排出量[t/年]} \times \text{減量化効果[\%]}$$

5.1.2 啓発等による事業系ごみの減量化

【検討条件】 1)ごみの減量化に関する啓発活動等により、ごみの減量化に対する事業者の意識向上を図り、ごみの減量化効果を見込みます。

2)減量化効果は、最大 5.0%を見込みます。

【算出式】 次のとおりです。

$$\text{減量化量[t/年]} = \text{事業系ごみ排出量[t/年]} \times \text{減量化効果[\%]}$$

5.2 資源化効果（市民の分別排出の徹底）

5.2.1 その他プラスチック

【検討条件】 1)啓発活動等により、分別排出の徹底を図り、資源化効果を見込みます。

2)資源化効果は、最大 7.35%を見込みます。

【算出式】 次のとおりです。

$$\text{資源化量[t/年]} = \text{家庭系可燃ごみ排出量[t/年]} \times \text{資源化効果[\%]}^{\text{注}}$$

注) 資源化効果[%]

= 家庭系可燃ごみ中のその他プラスチックの割合[%] × 分別協力率（最大） [%]

= 10.5[%] × 70（最大） [%]

= 7.35（最大） [%]

なお、分別協力率は、次ページのとおり最大 70%と設定しました。

5.2.2 古紙

【検討条件】 1)啓発活動等により、分別排出の徹底を図り、資源化効果を見込みます。

2)資源化効果は、最大 5.67%を見込みます。

【算出式】 次のとおりです。

$$\text{資源化量[t/年]} = \text{家庭系可燃ごみ排出量[t/年]} \times \text{資源化効果[\%]}^{\text{注}}$$

注) 資源化効果[%]

= 家庭系可燃ごみ中の古紙の割合[%] × 分別協力率（最大） [%]

= 8.1[%] × 70（最大） [%]

= 5.67（最大） [%]

なお、分別協力率は、次ページのとおり最大 70%と設定しました。

5.2.3 古布

【検討条件】 1)啓発活動等により、分別排出の徹底を図り、資源化効果を見込みます。

2)資源化効果は、最大 2.45%を見込みます。

【算出式】 次のとおりです。

$$\text{資源化量[t/年]} = \text{家庭系可燃ごみ排出量[t/年]} \times \text{資源化効果[\%]}^{\text{注}}$$

注) 資源化効果[%]

= 家庭系可燃ごみ中の古布の割合[%] × 分別協力率（最大） [%]

= 3.5[%] × 70（最大） [%]

= 2.45（最大） [%]

なお、分別協力率は、次ページのとおり最大 70%と設定しました。

【分別協力率の設定】

アンケート調査によると、その他プラスチック、古紙及び古布の分別を「日々実践している」人が36～70%を占めました。したがって、残りの30～64%の人については、その他プラスチック等の分別を毎回行っていないということになります。

今後の資源化に関する啓発活動等により、分別が徹底されることを期待し、現在その他プラスチック等の分別を毎回行っていない人のうち最大で70%の人が分別に協力するものと想定しました。

【アンケート設問】プラスチック製容器包装（トレイ、パック類、カップ類等）を資源ごみとして分別し、市の収集日に出している

【アンケート結果】

日々実践している	403人	70%
自分に負担がかからない範囲で実践している	66人	30%
必要だと思うがあまり実践していない	26人	
実践していない	61人	
わからない	7人	
未回答	11人	
合計	574人	100%

【アンケート設問】古紙類を資源ごみとして分別し、市の収集日に出している

【アンケート結果】

日々実践している	330人	57%
自分に負担がかからない範囲で実践している	73人	43%
必要だと思うがあまり実践していない	17人	
実践していない	115人	
わからない	1人	
未回答	38人	
合計	574人	100%

【アンケート設問】古布（衣類、タオル、ハンカチ）を資源ごみとして分別し、市の収集日に出している

【アンケート結果】

日々実践している	208人	36%
自分に負担がかからない範囲で実践している	82人	64%
必要だと思うがあまり実践していない	48人	
実践していない	188人	
わからない	15人	
未回答	33人	
合計	574人	100%

6 数値目標達成時のごみ排出量等

施策による減量化効果及び資源化効果は表 3、施策の実施により目標を達成したときのごみ排出量の推計結果は表 4 に示すとおりです。

表4(2) ごみ排出量の推計結果(目標達成時)

	単位	推計式等	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
			実績←→推計															
N 集団回収量	t/年	現状趨勢ケース	1,020	906	832	792	762	748	735	722	708	695	689	683	677	672	666	660
	t/日	年間排出量÷365	2.8	2.5	2.3	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8
	g/人・日	年間排出量÷a1÷365×10 ⁶	71.3	63.5	58.8	56.4	54.6	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5
O 自家処理量	t/年	現状趨勢ケース	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	t/日	年間排出量÷365	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	g/人・日	年間排出量÷a1÷365×10 ⁶	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
P 総排出量	t/年	M + N + O	12,229	11,829	11,489	11,435	11,421	11,240	11,069	10,837	10,602	10,375	10,237	10,109	9,974	9,841	9,711	9,585
	t/日	(M + N + O) ÷ 365	33.5	32.4	31.5	31.3	31.3	30.8	30.3	29.7	29.0	28.4	28.0	27.7	27.3	27.0	26.6	26.3
	g/人・日	(M + N + O) × 10 ⁶ ÷ A ÷ 365	854.4	829.4	812	814.9	817.5	818.8	820.9	818.4	815.6	813.4	809.4	806.1	802.2	798.5	794.9	791.4
Q 処理後再生利用量(H23のみ直接資源化量を含む、H23,H24,H27は溶融スラグを含む)	t/年	(C + D + F + I + J) × 99.9%(H26-27の有価物回収率の平均値)	874	1,199	983	1,376	1,420	1,345	1,323	1,439	1,545	1,652	1,767	1,885	1,997	2,107	2,218	2,324
R 総資源化量	t/年	N + Q	1,894	2,105	1,815	2,168	2,182	2,093	2,058	2,161	2,253	2,347	2,456	2,568	2,674	2,779	2,884	2,984
S リサイクル率	%	R ÷ P × 100	15.5	17.8	15.8	19.0	19.1	18.6	18.6	19.9	21.3	22.6	24.0	25.4	26.8	28.2	29.7	31.1
T 1人1日あたりの可燃ごみ排出量	g/人・日	(B + H) ÷ a1 ÷ 365 × 10 ⁶	714.6	678.1	664.6	642.4	637.9	642.3	644.2	631.2	618.3	605.4	591.3	577.7	563.5	549.5	535.6	521.9
U 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量(集団回収量、資源ごみ等を除く)	g/人・日	G - D	616.9	592.5	579.4	569.6	580.1	573.9	573.9	559.4	544.8	530.2	515.8	501.5	487.1	472.5	457.8	443.6
V 最終処分量	t/年	P × 8.5%(H25-27の最終処分量の平均値)	807	673	992	972	971	955	941	921	901	882	870	859	848	836	825	815

7 処理形態別人口等の推計

総人口については、ごみ排出量の推計と同様に、「瀬戸内市の人口推計 平成 27 年～平成 47 年（平成 24 年 7 月）」に基づき設定しました。

公共下水道人口については、トレンド推計法により公共下水道人口の比率の将来予測を行い、その予測結果に総人口を乗じたものを推計値としました。

農業集落排水処理人口及び漁業集落排水処理人口については、既存計画^{注)}における計画人口に基づき設定しました。

合併処理浄化槽人口及び計画収集人口については、トレンド推計法により推計しました。

自家処理人口については、直近 5 年間の平均値を採用しました。

なお、みなし浄化槽人口については、総人口からみなし浄化槽人口以外の人口を差し引いた数値としました。

また、し尿等排出量及び自家処理量の推計方法は、本編の 92、93 ページに示すとおりです。

処理形態別人口等の推計結果は、30 ページの表 5 に示すとおりです。

注) 瀬戸内市特定環境保全公共下水道全体計画 計画説明書（平成 23 年度）

7.1 公共下水道人口の比率

公共下水道人口の比率は全体的には増加傾向で推移しているため、増加傾向を示す4推計式のうち、相関係数が高く、現実的な増加傾向を示すべき曲線を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 0.56 + 1.08X$						0.979	
	二次傾向線	$Y = -79.808 + 7.53X - 0.129X^2$						0.989	
	指数曲線	$Y = 10.24 \times 1.04035^X$						0.974	
	べき曲線	$Y = 25 + 1.885 (X - 23)^{0.60179}$						0.992	○
	ロジスティック曲線	$Y = 100 / (1 + e^{(2.3285 - 0.0544X)})$						0.977	
	平均値	直近5年平均						-	
	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値	
実績値	H23	25.0	-	-	-	-	-	-	
	H24	27.0	-	-	-	-	-	-	
	H25	27.5	-	-	-	-	-	-	
	H26	28.8	-	-	-	-	-	-	
	H27	29.5	-	-	-	-	-	-	
推計結果	H28	-	30.8	29.9	31.0	30.0	30.9	27.6	
	H29	-	31.9	30.1	32.3	30.5	32.1	27.6	
	H30	-	33.0	30.0	33.6	31.1	33.3	27.6	
	R1	-	34.0	29.7	34.9	31.6	34.5	27.6	
	R2	-	35.1	29.1	36.3	32.1	35.7	27.6	
	R3	-	36.2	28.2	37.8	32.5	37.0	27.6	
	R4	-	37.3	27.1	39.3	33.0	38.3	27.6	
	R5	-	38.4	25.7	40.9	33.4	39.5	27.6	
	R6	-	39.4	24.1	42.5	33.8	40.9	27.6	
	R7	-	40.5	22.2	44.3	34.2	42.2	27.6	
R8	-	41.6	20.1	46.0	34.6	43.5	27.6		

推計結果等 [%]

The graph displays the ratio of public sewerage population over time. The actual data (実績) shows a steady increase from 25.0% in H23 to 29.5% in H27. The 5-year average (5年平均) is constant at 27.6%. Various trend lines are plotted, with the power curve (べき曲線) and logistic curve (ロジスティック曲線) showing the highest projected values, reaching approximately 46.0% by H28. The primary trend line (一次傾向線) shows a steady linear increase, while the secondary trend line (二次傾向線) shows a peak around H28 followed by a decline.

7.2 合併処理浄化槽人口

合併処理浄化槽人口は全体的には増加傾向で推移しているため、増加傾向を示す4推計式のうち、相関係数が高く、現実的な増加傾向を示すロジスティック曲線を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 10586.6 + 183.2X$						0.901	
	二次傾向線	$Y = 8539.421 + 347.5X - 3.286X^2$						0.901	
	指数曲線	$Y = 11207.8 \times 1.012166^X$						0.900	
	べき曲線	-						-	
	ロジスティック曲線	$Y = 16000 / (1 + e^{(3.0732 + -0.2415X)})$						0.895	○
	平均値	直近5年平均						-	
	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値	
実績値	H23	14,854.0	-	-	-	-	-	-	
	H24	14,803.0	-	-	-	-	-	-	
	H25	15,362.0	-	-	-	-	-	-	
	H26	15,285.0	-	-	-	-	-	-	
	H27	15,529.0	-	-	-	-	-	-	
推計結果	H28	-	15,716.2	15,693.2	15,724.2	-	15,609.7	15,166.6	
	H29	-	15,899.4	15,853.4	15,915.5	-	15,691.9	15,166.6	
	H30	-	16,082.6	16,007.0	16,109.2	-	15,757.0	15,166.6	
	R1	-	16,265.8	16,154.1	16,305.1	-	15,808.5	15,166.6	
	R2	-	16,449.0	16,294.6	16,503.5	-	15,849.2	15,166.6	
	R3	-	16,632.2	16,428.5	16,704.3	-	15,881.3	15,166.6	
	R4	-	16,815.4	16,555.8	16,907.5	-	15,906.6	15,166.6	
	R5	-	16,998.6	16,676.6	17,113.2	-	15,926.6	15,166.6	
	R6	-	17,181.8	16,790.8	17,321.4	-	15,942.3	15,166.6	
	R7	-	17,365.0	16,898.4	17,532.1	-	15,954.6	15,166.6	
R8	-	17,548.2	16,999.4	17,745.4	-	15,964.3	15,166.6		

推計結果等「人」

[人]

[年度]

実績
 一次傾向線
 二次傾向線
 指数曲線
 べき曲線
 ロジスティック曲線
 5年平均

7.3 計画収集人口

計画収集人口は全体的には減少傾向で推移しているため、減少傾向を示す4推計式のうち、現実的な減少傾向を示す指数曲線を採用しました。

		推計式 (X:平成年度、Y:推計値)						相関係数	採用
推計式等	一次傾向線	$Y = 19177.2 - 567.4X$						0.986	
	二次傾向線	$Y = 61896.932 - 3995.95X + 68.571X^2$						0.996	
	指数曲線	$Y = 83378.36 \times 0.893022^X$						0.992	○
	べき曲線	$Y = 6258 - 755.913 (X - 23)^{0.82455}$						0.993	
	ロジスティック曲線	$Y = 7000 / (1 + e^{(-12.272 + 0.4506X)})$						0.963	
	平均値	直近5年平均						-	
	年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	指数曲線	べき曲線	ロジスティック曲線	平均値	
実績値	H23	6,258.0	-	-	-	-	-	-	
	H24	5,543.0	-	-	-	-	-	-	
	H25	4,736.0	-	-	-	-	-	-	
	H26	4,463.0	-	-	-	-	-	-	
	H27	3,961.0	-	-	-	-	-	-	
推計結果	H28	-	3,290.0	3,770.0	3,509.1	3,408.2	2,902.5	4,992.2	
	H29	-	2,722.6	3,682.6	3,133.7	2,946.0	2,177.1	4,992.2	
	H30	-	2,155.2	3,732.3	2,798.5	2,497.1	1,563.8	4,992.2	
	R1	-	1,587.8	3,919.2	2,499.1	2,059.3	1,084.4	4,992.2	
	R2	-	1,020.4	4,243.2	2,231.7	1,631.1	732.2	4,992.2	
	R3	-	453.0	4,704.4	1,993.0	1,211.1	485.0	4,992.2	
	R4	-	-114.4	5,302.7	1,779.8	798.5	317.0	4,992.2	
	R5	-	-681.8	6,038.2	1,589.4	392.4	205.4	4,992.2	
	R6	-	-1,249.2	6,910.8	1,419.4	-7.8	132.3	4,992.2	
	R7	-	-1,816.6	7,920.5	1,267.5	-402.6	84.9	4,992.2	
R8	-	-2,384.0	9,067.4	1,131.9	-792.5	54.3	4,992.2		

推計結果等〔人〕

表5 処理形態別人口等の推計結果

	単位	推計式等	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			
			実績 ←		→ 推計																
人口	A 総人口		人	一次傾向線	39,212	39,072	38,766	38,446	38,276	37,610	36,944	36,278	35,612	34,947	34,652	34,357	34,062	33,767	33,472	33,180	
	水洗化人口	B 公共下水道人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】A × b	9,806	10,566	10,653	11,089	11,298	11,283	11,268	11,282	11,253	11,218	11,262	11,338	11,377	11,413	11,447	11,480	
		b 公共下水道人口の比率	%	【H23-27】実績値 【H28-H38】べき曲線	25.0	27.0	27.5	28.8	29.5	30.0	30.5	31.1	31.6	32.1	32.5	33.0	33.4	33.8	34.2	34.6	
		C 農業集落排水処理人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】既存計画 ^注 における計画人口に基づき、平成42年度に3,073人となるよう推計	3,765	3,765	3,635	3,580	3,513	3,484	3,455	3,426	3,397	3,368	3,339	3,310	3,281	3,252	3,223	3,194	
		D 漁業集落排水処理人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】既存計画 ^注 における計画人口に基づき、平成42年度に195人となるよう推計	258	258	253	250	248	244	240	236	232	228	224	220	216	212	208	204	
		E 合併処理浄化槽人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】ロジスティック曲線	14,854	14,803	15,362	15,285	15,529	15,610	15,692	15,757	15,808	15,849	15,881	15,907	15,927	15,942	15,955	15,964	
		F みなし浄化槽人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】A - (B + C + D + E + G + H)	4,221	4,087	4,077	3,729	3,677	3,430	3,105	2,729	2,373	2,002	1,903	1,752	1,622	1,479	1,321	1,156	
	非水洗化人口	G 計画収集人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】指数曲線	6,258	5,543	4,736	4,463	3,961	3,509	3,134	2,798	2,499	2,232	1,993	1,780	1,589	1,419	1,268	1,132	
	H 自家処理人口	人	【H23-27】実績値 【H28-H38】直近5年平均	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
収集量	I 屎尿		kL/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】H27年度の実績値 × (G,H27年度 ÷ G)	12,889	11,683	11,276	10,720	10,898	9,654	8,623	7,698	6,876	6,141	5,483	4,897	4,372	3,904	3,489	3,115	
	J 浄化槽汚泥		kL/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】(原単位(合併) × E + 原単位(みなし) × F) × 365 × 10 ⁻³	13,376	13,243	12,221	12,785	13,458	13,206	13,162	13,089	13,012	12,922	12,914	12,884	12,857	12,822	12,780	12,733	
			L/人・日(合併)	【H23-27】左下囲みのとおり計算 【H28-H38】直近5年平均	2.20	2.19	1.96	2.08	2.16	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12
			L/人・日(みなし)	【H23-27】左下囲みのとおり計算 【H28-H38】直近5年平均	0.94	0.93	0.83	0.88	0.92	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
K 農業集落排水汚泥		kL/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】原単位 × C × 365 × 10 ⁻³	773	925	904	942	986	865	858	850	843	836	829	822	814	807	800	793		
		L/人・日	【H23-27】年間排出量 ÷ C ÷ 365 × 10 ³ 【H28-H38】直近5年平均	0.56	0.67	0.68	0.72	0.77	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68		
L 漁業集落排水汚泥		kL/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】原単位 × D × 365 × 10 ⁻³	240	210	210	210	210	208	204	201	197	194	191	187	184	180	177	173		
		L/人・日	【H23-27】年間排出量 ÷ D ÷ 365 × 10 ³ 【H28-H38】直近5年平均	2.55	2.23	2.27	2.30	2.32	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33		
M 自家処理量		kL/年	【H23-27】実績値 【H28-H38】原単位 × H × 365 × 10 ⁻³	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20		
		L/人・日	【H23-27】年間処理量 ÷ H ÷ 365 × 10 ³ 【H28-H38】直近5年平均	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10		
N 水洗化率	%	(B + C + D + E + F) ÷ A × 100	83.9%	85.7%	87.7%	88.3%	89.5%	90.5%	91.4%	92.1%	92.8%	93.5%	94.1%	94.7%	95.2%	95.6%	96.1%	96.4%			
O 汚水衛生処理率	%	(B + C + D + E) ÷ A × 100	73.1%	75.2%	77.1%	78.6%	79.9%	81.4%	83.0%	84.6%	86.2%	87.7%	88.6%	89.6%	90.4%	91.3%	92.1%	93.0%			

注) 瀬戸内市特定環境保全公共下水道全体計画 計画説明書(平成23年度)

浄化槽汚泥の原単位の設定方法

【浄化槽汚泥の原単位の標準値】
 合併処理浄化槽汚泥: **2.61** L/人・日
 みなし浄化槽汚泥: **1.11** L/人・日
 出典: 汚泥再生処理センター等整備の計画・設計要領2006改訂版
 (社団法人 全国都市清掃会議)

【浄化槽汚泥の原単位の設定】
 本市における合併処理浄化槽汚泥の原単位: **X** L/人・日
 合併処理浄化槽人口(平成27年度): **15,529** 人

本市におけるみなし浄化槽汚泥の原単位: **Y** L/人・日
 みなし浄化槽人口(平成27年度): **3,677** 人

浄化槽汚泥の量: **13,458** kL

① **X : Y = 2.61 L/人・日 : 1.11 L/人・日**

② (X L/人・日 × 15,529 人 × 365 日)
 + (Y L/人・日 × 3,677 人 × 365 日)
 = **13,458** kL

①②の連立方程式の解より設定した。